

小松川第一中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

小松川第一中学校長 大林 博
コーディネーター 松本 洋之

2 ボランティア登録数（令和3年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	300人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
朝のあいさつ運動	ほぼ毎日	180人
薬物乱用防止教室	年1回	4人
進路講座	年1回	1人
SNS講座	年1回	2人
職業講話	年1回	2人
オリパラ体験教室	年1回	4人
夜間パトロール	夏季休業中	25人



進路講座（令和2年10月1日）



オリパラ体験教室（令和2年11月27日）

今年度の成果と課題

< 成 果 >

本年度の初めは、新型コロナウイルス感染症拡大防止を目的とした臨時休校の影響で、学校応援団の活動が行えなかった。しかしながら、6月の分散登校や7月からの一斉登校をきっかけに、昨年までとは大きく形を変えながら、活動を行っている。

夏季休業中の夜間パトロールについては、保護者有志のボランティアによって実施し、朝の挨拶運動については、全学年の保護者によるボランティアによって実施した。また「薬物乱用防止教室」「進路講座」「SNS 講座」「職業講話」「オリパラ体験教室」については、地域の方々や校外学習でお世話になる方々にボランティアを引き受けていただいて実施している。

このように、学校や地域における様々な活動を通して地域の方々からたくさんのことを教えていただき、親交を深めつつ、地域の一員としての足場を固めている。

< 課 題 >

今年度は、生徒が例年参加していた地域行事の多くが中止となった。再開の際に、多くの生徒が主体的に参加の意思が持てるよう、本校の生徒のために時間と労力を費やしてくださる地域の方々への感謝の気持ちを持たせたい。また、放課後の補習教室や定期考査前の質問教室で生徒に学習支援をしてくださる人材も確保したい。

5 コーディネーターより

学校・保護者・地域が一体となって諸活動に取り組むことができるように学校応援団コーディネーターとして協力させていただいています。今年度は、臨時休校や感染症対策で活動が制限されましたが、地域ぐるみで子どもたちを見守り、育てていくという方針の下、多くの保護者・地域の皆様からのご理解とご協力に基づきまして活動を進めてまいりました。子どもたちが健全に成長していく様子は地域に活力を与え、地域活動の活性化につながっています。

これからもこの活動を継続できるように、保護者・地域の皆様には、これまで培ってきた自らの経験や知識・技能を生かし、できる人が、できる時に、できる事をやるということを基本として、ご支援、ご協力をお願いしたいと考えています。

6 学校長より

本校では、学校主催の活動と地域主催の活動の両方を「学校応援団の活動」として位置付けている。

学校主催で行う活動

学校主催で行う活動は、前ページの「3 今年度の活動状況」に記載した内容である。本校の学校行事は学校応援団の方々の協力によって支えられて成り立っており、これまでも大きな成果を収めてきた。今年度は、学校応援団の協力を得て「新たな生活様式」を意識して、生徒一人一人が運動の大切さを知り、豊かなスポーツライフを送ることができるよう、体幹トレーニングを中心とした体験的な学習を行った。

地域主催の活動

例年、青少年育成地区委員会では地域行事の進行に関して大勢のボランティアを募集している。これまで、本校では生徒にボランティア活動を奨励して進行の協力を経験させており、地域の方々と触れ合うことで地域の一員としての自覚を深める機会をもってきた。

次年度以降もこれまでのように、学校応援団の方々から支援と協力をいただきながら、今後も地域・保護者との関わりを大切にしつつ、生徒の健全育成に努めていく。

小松川第二中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

小松川第二中学校長 横澤 広美
コーディネーター 村上 則俊

2 ボランティア登録数（令和3年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	60人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
学校行事協力	不定期	20人
環境整備	不定期	40人



4 今年度の成果と課題

< 成 果 >

例年、本校の教育活動全般を学校応援団活動によりバックアップしていただいています。本校の二大行事である運動会、文化祭等の大きな行事の運営に御尽力いただいています。今年度は、学校行事が中止となり活動が難しい一年になりましたが、コロナ禍での新しい生活様式に向けて、生徒の健康・安全を守るため、校舎内の消毒活動に対して、多くの方々に御協力いただきました。

< 課 題 >

今年度はコロナウイルス感染症のため、多くの活動に制限がかかり、思うような活動ができませんでした。例年だと学校応援団活動の多くをPTA本部役員や委員の方々にお願いしており、参加してくださった方々には多大なる御負担をおかけしています。毎年保護者会などのおりに宣伝していますが、より多くの方々に学校応援団活動を知っていただき、御協力いただくためには、さらに広報活動を盛んにしていく必要があると考えます。また、今後は、学校応援団員と生徒個々とがより親密に関わることのできるような企画を考えていければと思っております。

5 コーディネーターより

今年度は学校行事がなくなり、その部分で学校運営に貢献することができませんでした。校内の消毒活動など生徒の安心安全のために活動をしてきました。新校舎に移転し3年目となりましたが、今後さらに多くの方々に御協力いただきたいと考えております。機会を見て宣伝や勧誘を行い、いろいろな分野で学校の教育活動を応援していきたいと考えております。

6 学校長より

今年度も学校応援団の皆様の御協力を得て、充実した教育活動を行うことができました。生徒は地域の中で育ち、学校は地域に支えられています。本校の教育活動に御協力、御尽力いただいた皆様に心から感謝申し上げますとともに、今後も引き続き御支援、御協力をよろしくお願いいたします。

小松川第三中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

小松川第三中学校長 小野塚 浩樹
 コーディネーター 鹿倉 勇



2 ボランティア登録数（令和3年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	19人
	学生ボランティア	1人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
学習補充指導	2、3学期中 週1回	1人
行事運営補助	今年度中止	
コマサンまつり	今年度中止	
出前授業・講演	留学生が先生、SDGs学習	9人
環境整備・安全指導	不定期（マスク配布、花壇整備）	10人



4 今年度の成果と課題

< 成 果 >

SDGsへの取組を全面に打ち出し、「SDG11:住み続けられるまちづくり」を今年度のテーマとして、継続して地域との連携を深める予定であった。しかし、コロナ禍において学校行事及び学校公開の全面中止になり、昨年度までのほとんどすべての活動ができなくなった。

学校応援団としての活動が大々的にできなくなった今年度は、登校する生徒や地域の皆様の心を少しでも和らげることができればと、花の苗を植え付ける活動を行った。

3月、4月に芽が出るよう、寄贈された鉢に植え付ける活動を今後行う予定である。

また、オンライン授業に入った大学生が、3年生の放課後学習のサポートをしてくれた。

< 課 題 >

三密を避け、学校公開、行事の中止の指示が教育委員会から下される中で、何ができるかを考え実施すること。

外部の人間が学校内に入ることに不安を感じる保護者への丁寧な説明。

安全安心が第一の学校において、感染拡大防止をどう図るかということ。

今年度はそれに尽きる。

本校では、5人の部活動指導員、6人の部活動外部指導員、2人のSSS, 2人の介助員、1人のSSなど、無償ボランティアではないが外部人材の活用により、より充実した活動が行えていることを追記する。

5 コーディネーターより

本校同窓会長兼コーディネーターを務めさせて頂いております。微力ながら、学校、家庭、地域をつないできました。また現在は、学校評議委員として常に小松川第三中学校を見守ってきました。学校応援団コーディネーターとして「やれることから」をスローガンに活動していきたいと考えています。しかしながら、生徒、PTA、各町会・地域の事業所などの力を集結させるコマサン祭は、今年度は残念ながら中止となりました。コロナ禍がおさまり、今後も地域の中のコマサンとして子どもたちの学校生活をサポートしていきたいと考えています。

6 学校長より

平井・小松川地区は、元々地域が人・子供を育てようという営みが盛んな地域です。生徒達の参加するボランティア活動を多数用意し、地域の方々が地域に生きる生徒を育てていただいています。そのような環境の中で、本校は「ふれあい」を大切に「アットホームな学校づくり」に取り組んでおります。

また「持続可能な開発のための教育(ESD)」に取り組むべく、校内研修を進める中で、生徒の学習活動を家庭や地域に広げていくことができるとも考えています。サステイナブルスクールを目指し、学校応援団の皆様とも今後も連携していきます。

松江第一中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

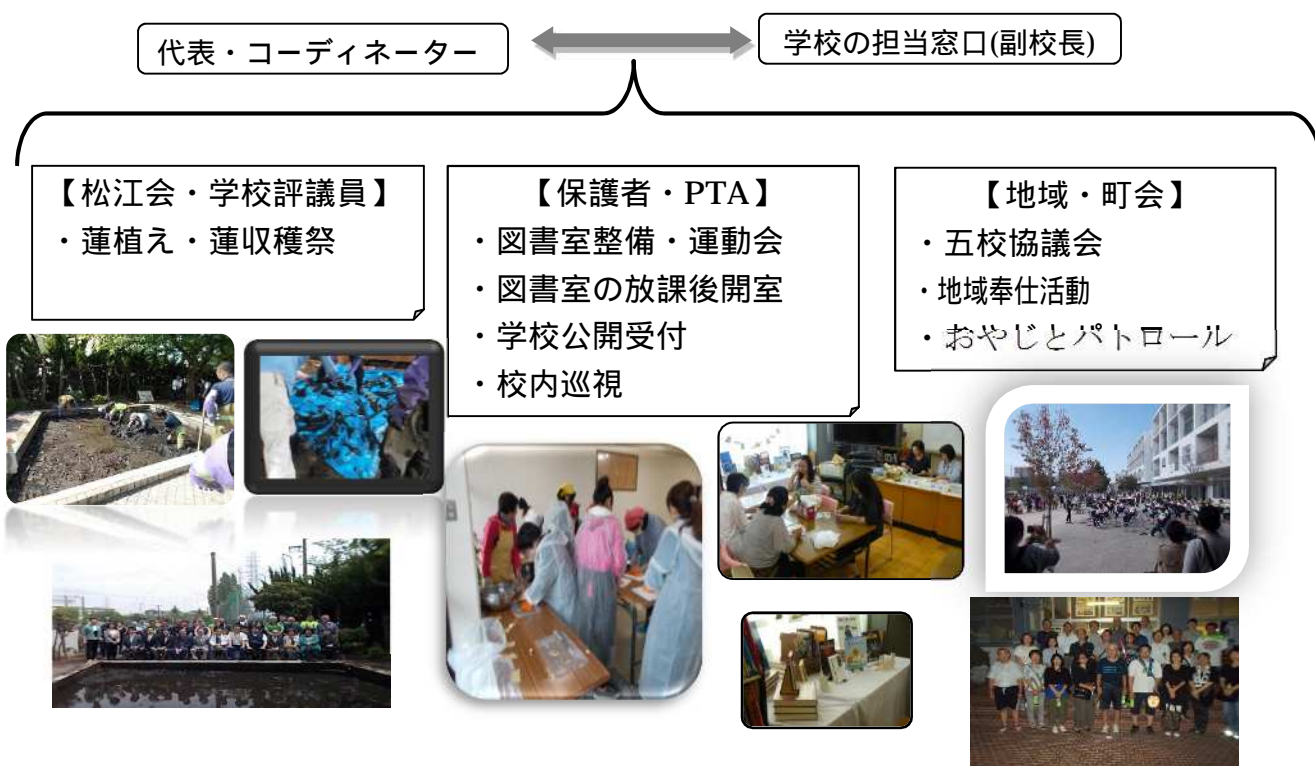
松江第一中学校長 飯牟禮 俊紀
 コーディネーター 中里 義雄

2 ボランティア登録数（令和3年1月末現在）

学校応援団ボランティア登録数	一般ボランティア	60人
	学生ボランティア	1人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
図書室整理・管理支援	毎週水曜を基本とする	20人
土日等学習支援	定期考査直前の土曜日(年3回)	6人
行事支援(蓮の種植え)	1学期(不定期)	30人
行事支援(蓮の収穫祭)	2学期(不定期)	50人
蓮田の管理支援	毎週(不定期)	1人



4 今年度の成果と課題

< 成 果 >

- ・新型コロナウイルスの影響で例年行っている行事を大規模には実施できなかったが活動が、例年通りOB、PTA、地域等で協力し行うことができた。
- ・図書室ボランティア活動が組織され9年目となった。夏休み中に図書室の蔵書の整理ができた。今年度は、放課後図書室を定期的に開室することができた。また、図書購入の際に本の選定作業の手伝いもしていただいた。
- ・子供たちの教育は、学校だけでなく家庭、地域も関わりながら三位一体で行っていく必要があるということがより明確になった。

< 課 題 >

- ・学校応援団の人員の確保が今後課題になる。
- ・学習支援のボランティアの人数を確保することが、毎年の課題となっている。

5 コーディネーターより

第三十一代PTA会長の中里です。コーディネーター9年目になります。今年度は新型コロナウイルスの感染防止のため「蓮の収穫」が心配されましたが、学校評議員、PTA、地域の方、松江会（OB会）のご支援、さらに、ボランティアさんの協力のもとで、約50kgの蓮を収穫することができました。また、図書室ボランティア活動が定着し、ほぼ毎週水曜日に図書室の開館ができるようになりました。

今後もPTA・地域の方・OBの方々と協力して、松江一中のためにできることに積極的に取り組んでいきたいと思っております。

6 学校長より

本校では、学校応援団として活動する以前から学校評議員、PTA、地域の方、松江会（OB会）をはじめたくさんの方から様々なご支援をいただけてきました。そして、現在ある組織を活用して「学校応援団」を発足しました。

今年度は、東京都から表彰を受けました。本校旧PTA会長の中里コーディネーターを中心に蓮田活動や様々な行事を今後も盛り上げていただければと思います。

子どもは地域の宝です。学校・家庭・地域が連携、協働して育てなくてはなりません。その共育の核となる「学校応援団」をさらに充実させていこうと思っております。

松江第二中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

松江第二中学校長 折橋 信二
コーディネーター 関 和典

2 ボランティア登録数（令和3年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	13人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
あいさつ運動	4,5月以外の毎週月曜日 8:00 より	0人
面接練習	12月3日～12月10日	0人
花壇作り	11月13日	2名
茶道教室	3月9日	今年度実施せず



学校応援団面接(参考)



朝のあいさつ運動(参考)

4 今年度の成果と課題

< 成 果 >

毎年、応援団と保護者・生徒（本校の生活委員）が合同で、毎週月曜日に朝のあいさつ運動を実施していましたが、今年度はコロナ感染症対策のために昨年度末から引き続き学校休業日が続いたため、実施することができませんでした。

11月の花壇づくりについては、コーディネーターと相談し、コロナ禍ではありますが来年の春先に向けてせめて苗の植え付けだけでもと、主事さんたちに植えていただきました。

また例年、12月には高校受験を控えた3年生の面接練習を1週間にわたって行なっていましたが、今年度は感染症対策のため残念ながら中止としました。例年、3月に卒業を前にした3年生を対象とした茶道教室も同様です。一日も早い正常化を望みます。

< 課 題 >

課題としては、学習支援活動、部活動の支援、生活の安全確保のための活動、あいさつ運動などのPTA活動との連携、道路クリーンアッププロジェクトなどの生徒会活動との連携をはじめ、松江第二中の学校に係る様々な取組を学校応援団の活動につなげていくことを考えています。そのためには、一人でも多くの応援団員の力が必要です。地域の人材の確保が今後の重要な課題となっています。

5 コーディネーターより

今年度は学校休業からのスタートで、例年、多くの生徒が活動に参加していた登校時に行う朝のあいさつ運動も実施することができませんでした。11月の花壇づくりは、来春に向けて主事さんの協力のもと、苗の植え付けを行いました。面接練習(12月)は例年、3年生の生徒たちの進路に対する真剣な思いが一人一人から伝わってくる行事ですが、今年度は見合わせることにしました。このように今年は通常の活動ができない状況でありましたが、今後、応援団の活動で関わった子どもたちの成長していく姿を見ることができるよう、今後もより良い学校づくりに携わっていきます。どうぞよろしくお願い致します。

6 学校長より

昨年、松江第二中学校に校長として赴任しました折橋信二と申します。本校は地域との強い結びつきに支えられてるということ、4月以降、学校行事を始めとする様々な場面を通じて実感しています。そして、学校応援団も本校の支えとなる大切な活動です。今年はコロナ感染症対策のために活動ができませんが、例年あいさつ運動に始まり、面接練習などの活動をコーディネーターの関さんを中心に、精力的に進めていただきました。3月には3年生を対象に茶道教室を実施予定でした。

来年度も、学校応援団をはじめとする地域の方々と共に、「新しい松江二中」の実現に向かって、活動の充実を図ってまいります。

松江第三中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

松江第三中学校長 山口 孝
コーディネーター 上野 康雄

2 ボランティア数（令和3年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	30人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
登下校巡回見回り	不定期	20人
環境整備	不定期	10人
行事支援	不定期（今年度は中止）	30人
祭礼パトロール	夏季休業中（今年度は中止）	20人

< 学校応援団感謝状贈呈 >

一昨年度（平成30年度）11月1日の東京都教育の日に、平成30年度学校活動支援団体に対する感謝状贈呈式において、地域における児童・生徒の育成活動部門で、本校の学校応援団団長、上野康雄様が感謝状を頂きました。これからも学校応援団、OB会、PTAの方々の活動支援を賜りますようよろしくお願い致します。

< 地域防災 > 今年度は中止になりました。

毎年消防署の方を招き、保護者や地域の方々に参加していただく訓練です。昨年度は11月に「煙ハウス」の体験訓練を中心に実施しました。見た目は何でもないような煙ですが、実際にはハウスの中はほとんど視界がきかず、これが夜だったらと思うと恐怖さえ感じるほどでした。来年度は、学校応援団を含めた地域の方々にたくさん参加し、体験して頂けたらと思います。



< 花壇及び菜園 >

27年度より花壇を作り菜園として手入れをし、色々な作物を育てています。また、三年前から「耕運機」を稼働させ、耕す時間が大幅に減少できています。花壇隣には防災井戸も完成し、今後の水やりに活用していきます。

4 今年度の成果と課題

< 成 果 >

花壇と菜園は、地域の方や園芸関係の方から手ほどきを受け、徐々に成果を出していくことが課題です。次回の挑戦は「馬鈴薯」を収穫することです。他の作物の収穫も目指した取り組みをします。数年後に松三中産の収穫物をお見せすることが出来るようにしていきます。

昨年度、地域防災のボランティア活動に21名の生徒が参加しました。また近隣小学校のボランティアには33名の生徒が参加し、地域を盛り上げました。人の役に立ったり、人から喜んでもらったりすることは、自分にとってもやりがいや喜びにつながっていくものです。今年度は中止になりましたが、これからも多くの本校生徒が進んでボランティア活動に参加することを願っています。

< 課 題 >

一昨年度より、諸事情で三中フェスティバルを実施できていませんが、またの機会があれば、メンバー全員で盛り上げて実施したいと考えています。学校応援団、OB会、PTAの方々は、お仕事をもちつつ学校への協力ということでお忙しい時間のやりくりをして頂く中、どう時間を捻出し、効果的に色々な取組みにしていくかが今後の課題となります。

5 コーディネーターより

学校応援団として、祭礼パトロール、三中フェスティバルへの協力、菜園の定期的な管理をしてきましたが、一昨年度は東京都教育委員会より学校活動支援団体に対する感謝状を頂くことができました。校長先生からは「何かあったときに助けてくれる学校応援団でいてください。」という言葉がいただいておりますので、これからも、松江三中の生徒たちを見守り、先生方やPTAからの要請があればいつでも協力できる体制を整えています。

今後も活動内容を工夫しながら「松江三中の生徒たちに見てもらえ、参加してもらえ」活動を目指していきたいと思えます。

6 学校長より

今年度は、コロナ禍で様々な学校行事・地域行事が中止になりました。大変残念でした。しかし、本校の教育活動を様々な側面からご支援いただきながら、子供たちを地域で見守っていただきました。

いつも思うことですが、ほとんどの応援団の皆様がお仕事を持っていらっしゃる、たいへんお忙しい中にもかかわらず、いつも松江三中のためにと気にかけていただいております、本当に頭の下がる思いです。これからも、子供たちのために本校教育活動やPTA活動にご協力いただきながら「何かあったときに助けてもらえる学校応援団」でいていただけよう、心よりお願い申し上げます。



松江第四中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

松江第四中学校長 高萩 広志
コーディネーター 富永 秀樹

2 ボランティア登録数（令和3年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	8人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
園芸整備	不定期	5人
校内池整備	不定期	3人



4 今年度の成果と課題

< 成 果 >

昨年度に引き続き、本年度も学校応援団の方々、本校用務主事、教師、ボランティア生徒が協力して、校門付近の花壇の整備を行いました。学校応援団の方々や用務主事が生徒に積極的に働きかけて下さり、土や花に親しみ熱心に取り組む姿がありました。色鮮やかな花々は生徒の心を和ませ、来校者からもお褒めの言葉をいただいております。

また、本校舎入口にある池のメダカの飼育を、今年の新たな取り組みとして行って頂きました。元PTA会長から頂いた「みゆきメダカ」の餌やりや、稚魚を別容器で飼育、池の清掃など、学校応援団の方や、用務主事、教師やボランティア生徒がかわるがわる面倒を見ています。そのおかげで「みゆきメダカ」も大きくなり、数も増えました。生徒もその成長を楽しみにしています。

また、本校でも行っている持続可能な開発目標（SDGs）への取り組みにも大きく貢献しています。SDGs「14 海の豊かさを守ろう」「15 陸の豊かさもまもろう」は、まさに今回の学校応援団の取り組みそのものです。

< 課 題 >

今年度は学校応援団・PTAの方々の協力による本校PTAイベント「松四フェスティバル」が中止となり、学校応援団の方々の活動、生徒のボランティア活動の場が無くなってしまいました。また同様の理由により、学校応援団の活動へも多くの方に関わって頂くことが出来なくなりました。

今後も社会の変化に応じた対応が求められ、学校応援団の活動も変化に応じた取り組みを考えていかなければいけません。

5 コーディネーターより

今年度は新型コロナウイルス感染症への対応のため、学校だけでなく社会や家庭での生活も大きく変化しました。戸惑いも多く、学校現場は本当に大変だったと思います。そんな中、校長先生をはじめ先生方が日々丁寧に対応していただき感染拡大することなく学校生活を送れることに、とても感謝しております。学校応援団も感染拡大を防ぐため、今年度規模を縮小し、ごく少人数で活動しました。池のメダカの飼育のお手伝いも今年度から新たに取り組ませていただきました。今後も学校応援団として変化に対応した協力をしていきたいと思っております。

6 学校長より

今年度はコロナ禍での活動となりましたが、学校応援団の皆様の活動に心よりお礼申し上げます。活動は縮小となりましたが、皆様の取り組みが生徒の意欲と励みになっていることに感謝しております。世の中が早く元の状態になり、運動会や合唱コンクールなど生徒の輝く活動が戻ることを願い、今後も応援下さいますようお願い致します。

松江第五中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

松江第五中学校長 荒巻 淳
コーディネーター 牧島 孝行

2 ボランティア登録数（令和3年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	10人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
夢を育む講演会	○バドミントンダブルス リオオリンピック金メダリスト 高橋礼華 2月27日(土) 「高松ペアとして歩んだ13年」	
学校図書館の充実	○学校図書館の整備 ・蔵書の分類 ・分類シールの貼り換え ・図書委員への指導	4名
地域貢献活動	○小学校連合運動会に向けての出前指導 ・陸上部 ○地域の祭りボランティアへ参加 ・生徒会、有志生徒、吹奏楽部 ○老人介護施設ボランティア ・生徒会、有志生徒	

4 今年度の成果と課題

< 成 果 >

夢を育む講演会では、リオデジャネイロオリンピック バドミントンダブルス金メダリスト「高橋礼華」氏による「高松ペアとして歩んだ13年」について語っていただきました。高橋氏は高校時代からペアを組んだ松友美佐紀選手とだったから多くの苦勞を乗り越えられたと熱く語っていました。今年度の講演会はコロナにより保護者の皆さんに参加してもらえず残念でしたが、学校ホームページにおいて講演会の様子を紹介することができました。

学校図書館の整備では、昨年度区の協力を得て設備面の整備は終了し、ボランティアの地域の方4名に手伝っていただき、新規購入本の整備がほぼ終わっています。今後は委員会活動においてほんの貸し出しや返却をスムーズに行い、本の紛失を防いでいきます。

地域貢献活動では、今年度はほとんどの活動が中止となり、実施できることはありませんでした。しかし、例年であれば上記の内容を実施する予定でした。来年度実施できるよう準備を進めたいと思います。

< 課 題 >

「夢を育む講演会」では、今年度知名度の高い講演者をお呼びすることができ盛況でした。今年度は実施できるか危ぶまれましたが実施できよかったですと思います。この講演会は生徒たちに計り知れない効果があると確信しています。今後も継続できればと考えています。来年度以降も予算の範囲内で質の高い内容を検討していきます。小学校の出前指導では朝早いため顧問の負担がありました。地域の祭りやボランティア等への参加は、積極的な生徒は多いですが、来年度も同じ体制でやれるかが課題と考えます。

5 コーディネーターより

私、牧島孝行は松江第五中学校の学校応援団として9年目を迎えます。一之江小学校でも学校応援団コーディネーターとして活動してまいりました。学校応援団の活動として特に力を入れたのは「地域貢献活動」です。地域の小学校と中学校、高校が連携を図りながら地域の人々と関わっていくことはとても意義のあることだと考えますが、今年度は残念ながら一之江西口まつりや中央・一之江ふるさとまつりは中止となり、来年度以降もどうなるか先の見えない時代です。しかし、学校を元気にして地域を支えながら、地域を活性化させ地域で暮らす人たちを結びつける活動をこれからも続けられるよう知恵を絞って取り組んでいきたいと思います。

私は松江第五中学校の卒業生でもあり、母校の後輩でもある地域の子供たちの活躍に大いに期待をしています。松江第五中学校が地域の拠点として絆が強く太いものになることを願っています。

6 学校長より

今年度校長として着任しました荒巻淳です。本校の歴代PTA会長やOBの皆様の松江第五中学校に対する熱く強い思いをいつも感じています。今年度は地域に貢献できる活動がほとんどできず残念でしたが、本校を応援してくださる皆様の熱意に応えるべく、教職員一丸となって松江第五中学校の教育活動に全力で取り組んでまいります。ご協力をいただく場面がこれからも多いと思いますが、よろしく願いいたします。

松江第六学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

松江第六中学校長 林 和夫
コーディネーター 平田 光男

2 ボランティア登録数（令和3年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	20人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
環境整備	不定期	10人
花植え運動	不定期	5人
朝のあいさつ運動	毎朝	1人
六中スローガン写真切り	不定期	13人



六中スローガンに使う写真切り取りの様子



シンボルの池の清掃

4 今年度の成果と課題

< 成 果 >

主な活動は、環境整備として校門近くの花壇の花植え、シンボルの池の掃除、朝の挨拶運動だけの活動でした。例年行なっている10月の六中祭りや11月の五町会防災訓練・避難訓練は新型コロナウイルス感染防止のため中止となってしまいました。大変残念ではありましたが、六中祭りの代わりに松江六中のスローガンを写真で作成することになり、写真切りをお手伝いいただきました。六中祭りにボランティアの生徒が参加できなかった分、六中のスローガンづくりには多くのボランティアの生徒が参加しての作成になりました。このことは、本校生徒が今まで地域の方々と一緒にボランティア活動に参加してきたことが生かされ、コロナ禍でも何か自分たちにできることはないのかを考えた結果だと思えます。

< 課 題 >

今年度は応援団の方と生徒と一緒に活動することがなかったので、来年度は今年度できなかった六中祭りや五町会合同防災訓練・避難訓練の実施に向けて生徒が学校応援団や地域の方と触れ合いながら取り組める内容について検討することが必要です。また、生徒会を中心としたボランティア活動などに学校応援団の方々に関わっていただけるものがないか考えてみることも課題です。

5 コーディネーターより

学校応援団のコーディネーターとして今年は、思うような活動ができませんでした。新型コロナウイルス感染防止のために長年積み重ねてきた行事ができなくなり私達だけでなく、子供たちが辛い思いをしていることに大変歯がゆい思いをいたしました。しかし、そんな中でも環境活動として花壇の花植えや池の掃除ができてよかったと思います。また、生徒たちが考えた六中スローガンの作成に少しでもお手伝いできたことが応援団として今年の大きな成果でした。

子供たちは将来地域を支える大切な人材です。今後も学校応援団の活動をとおして、松江第六中学校を支援してまいりたいと思っております。

6 学校長より

将来の地域の担い手の育成ということで、例年、学校応援団の皆様には松江六中の教育環境の整備を行っていただくとともに、地域の行事にも本校ボランティア生徒を参加させていただくなど、学校と地域の橋渡しを積極的にしていただいておりますが、今年は新型コロナのために、生徒が参加できる地域行事がすべて中止となってしまったため、学校の環境整備と朝のあいつ運動を中心に活動を行っていただきました。

学校行事もすべて非公開となってしまい、学校の様子をほとんどお伝えできない状況にもかかわらず、学校へのお心遣いやご協力に心より感謝申し上げますとともに、今後も引き続き本校へのご支援・ご指導をよろしくお願いいたします。

二之江中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

二之江中学校長 茅原 直樹
コーディネーター 桐井 義則

2 ボランティア登録数（令和3年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	45人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
二之江中を愛し育てる会	標語の顕彰(各学期1回)環境整備(不定期)	20人
検定委員会	英語・漢字・数学検定の申し込みや 試験監督(各学期3回で計9回)	24人
学習指導	エンカレッジルームに来る生徒の 学習指導(毎週水曜)	1人



英語・漢字・数学検定
(年間各3回の実施)

4 今年度の成果と課題

< 成 果 >

今年度の検定委員会もスタッフを英語検定担当、漢字検定担当、数学検定担当と分担し、スタッフの負担を軽減しつつ、2学期は、英・数・漢の3つの検定を行い、3学期は、英語検定を行った。

今年もエンカレッジルームに来る生徒に対して学習指導を行うことができた。スタッフは引き続き都の人材バンクの紹介をお願いしている。来年度も継続してお願いする予定である。

二之江中を愛し育てる会の活動は計画どおり実施でき、顕彰作品への生徒の応募も80パーセント以上で、会の方も喜んでいる。

○3学年を対象とした受験面接練習を地域の方々の協力を得て実施することができた。

< 課 題 >

検定委員会のメンバーが新年度に入れ替わる際に、仕事の手順等の引き継ぎを確実に行う。

新型コロナ感染拡大のため、図書サポート委員会が全く活動できなかった。

エンカレッジルームの学習支援は、スタッフの継続ができそうなので、引き続き依頼し発展させたい。

二之江中を愛し育てる会は、標語の顕彰を中心に様々なことに対して応援して下さる。来年度も引き続き応援していただけるよう関係を強化していく。

○新型コロナ感染拡大のため、地域ふれあい面接が全く実施できなかった。3年生の面接は、校長・副校長での対応しかできなかった。

これまで培ったノウハウが途絶えることのないようにしていきたい。

5 コーディネーターより

新型コロナ感染拡大防止に対応しなければならない中、皆様が二之江中学校を応援していただき感謝いたします。さて、毎年お伝えしていることですが、学校・家庭・地域社会の三者の役割分担と密接な連携のもと、「子どもたちのために大人は何ができるのか？」これが教育の原点と考えております。このことを念頭に置き、皆様の協力を得て、三者の橋渡しをしていきたいと思っております。今後とも、新型コロナ感染拡大防止に努めながら二之江中学校を応援するため、皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

6 学校長より

本校の学校応援団の原点は、開校当時から歴代PTA役員によって構成される「三江会」や平成12年に発足した「二之江中を愛し育てる会」にさかのぼることができます。それらが発足した当時の地域の皆様が二之江中に寄せる思いは、切実なものがあつたと聞いています。以来、子どもたちの健全な成長に学校と地域の皆様が協力し合って取り組むことができっております。

しかし、新型コロナ感染拡大防止への対応のため、昨年度発足し活動した「地域ふれあい面接」や図書サポート委員会は実施できませんでした。今後、感染状況や区の対応状況を見ながら活動再開について対応してまいります。

本校の学校応援団の活動は、多くの皆様のご理解・ご協力により順調に活動しているところです。新型コロナ感染拡大防止に努めながら今後とも、子どもたちのかけがえのない中学校生活3年間がより充実したものとなるよう、学校応援団の皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

葛西中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

葛西中学校長 内野 雅晶
コーディネーター 土田 知美

2 ボランティア登録数（令和3年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	18人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
夜間パトロール	8月17日、8月18日、8月19日 8月20日、8月21日	15名ほど
図書館整理ボランティア	週1回（毎週火曜日）	10名ほど
図書館清掃ボランティア	10月24日、11月14日 11月28日、12月12日	10名ほど



4 今年度の成果と課題

< 成 果 >

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学校は臨時休校でのスタートとなりました。人との接触や不要不急の外出が制限される中、学校応援団、PTA活動の実施は困難を極めました。そのような中でも、生徒の健全育成や校外生活の安全に係る活動、ボランティア活動の企画立案、生徒への積極的なサポートを中心に行いました。今年度の全体的な活動規模はかなり少なくなりましたが、知恵を出し合い、できることを確実に進めていく葛西中学校学校応援団の行動力が随所に表れました。このようなときに、これだけの活動ができたことに、地域・学校・家庭のつながりを強く感じる1年となりました。

< 課 題 >

小中併設校として2年目、今年度は校庭の工事も終わり、新たなスタートを切りました。しかし、このコロナ禍で学校応援団として例年のような十分な活動ができませんでした。来年度、まずは実行可能な活動をあらためて見直し、地道に進めていくこと、さらに学校と情報を共有しながら新しい環境での課題発見に努めます。そしてこの緊急事態を乗り越え、学校応援団としてさらに意味があり効果のある活動で、葛西中学校を支え、課題解決に努めて参ります。

5 コーディネーターより

年間を通し感染症予防に努めながら、無事に教職員や生徒と協力し、活動できたことは有意義なことでした。より打ち合わせの回数を少なく、それぞれが案を持ち寄って、できる限り短時間で会議を済ませることができました。

学校応援団の活動のさらなる推進のため、より多くの人に参加し関わられるよう、活動を広げていく視点でさらに発信方法を工夫していきたいです。次年度は地域防災の拡大・充実など新しい工夫をぜひ取り入れたいと思っています。

6 学校長より

小学校と中学校の併設校舎としてスタートして、2年目となりました。区内で唯一の特色をもつ葛西中学校は、生徒のボランティア活動も小学生の存在を意識した取組を推進しています。生徒のボランティア活動の実施数や生徒の参加数は年々増加をしており、学校応援団が生徒の活動を保証する支えとして機能しています。今年度は新型コロナの関係で十分なボランティア活動を行うことができませんでした。そのような中でも、生徒の自信や自己肯定感・自己有用感・自尊感情の醸成・向上を推進する有意義な活動として、次年度の活動に大いに期待しているところです。一年間、ありがとうございました。

葛西第二中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

葛西第二中学校長 植木 清
コーディネーター 福島 剛

2 ボランティア登録数（令和3年1月末現在）

学校応援団ボランティア登録数	一般ボランティア	25人
	学生ボランティア	1人

3 今年度の活動予定

例年は下記のような活動を行っていますが、コロナウィルス感染防止対策として活動を中止しました。

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
防災訓練	年1回	40人
地域面接	年1回	14人
盆踊り巡回	年7回	36人

4 今年度の成果と課題

< 成 果 >

- ・ 応援団の取り組みのひとつである七町合同防災訓練は、葛西二中オフィシャルボランティアのひとつとして位置づけ、本校の伝統行事にもなっているが今年度は新型コロナウイルスの感染防止のため中止となった。
- ・ 地域の方と中学生が正式な形で話をする。は、直接話を聞くことで、お互いの理解が深まり、より地域と密着した形での学校作りができると考えられるが、今年度は新型コロナウイルスの感染防止のため中止となった。
- ・ 地域パトロール、盆踊り訪問等は、保護者が地域の一員として、地域活性につとめている姿を見ることになり、学校の教育活動を支援して下さる地域の方として活躍している。そのため、子供が多様な体験活動ができ、地域と密着した子供の豊かな育ちにつながっていると思われるが、今年度は新型コロナウイルスの感染防止のため中止となった。

< 課 題 >

- ・ 今年度は、新型コロナウイルスの感染防止のため中止となった。来年度についても感染状況を鑑みながら、実施を判断しなければならない。
学校応援団の活動については充実を図ることも大切であるが、教員の働き方改革も推進しながら、既存の活動を工夫し、よりよいものにしていくとともに新たな活動を模索しより充実した教育環境の整備を目指す。そのためにPTA・地域の方々に広く呼びかけ新たな人材の確保に努める。
また、協力していただく地域・保護者の方々、代表及び学校がより円滑に連絡・連携ができるシステムを工夫する。

5 コーディネーターより

- ・ 今年度は新型コロナウイルスの感染防止のため中止となったが、本校における学校応援団の活動は来年度も引き続き現PTA本部役員やOB、そして同窓会、町会や地域の皆様といった本校とかかわりのある皆様にご参加いただく形で活動していきたい。
従来から変わらずにご支援いただいている皆様には深く感謝申し上げますとともに、来年度も引き続き葛西二中へのご協力をいただけますようお願い申し上げます次第です。

6 学校長より

学校応援団の活動を通して、PTAを中心とする保護者の皆様や、町会や地域の皆様、同窓会、PTA、OB、卒業生といった多くの皆様に応援団協力者として教育活動へのご支援・ご協力をいただき、成果を上げてまいりました。

今年度は新型コロナウイルスの感染防止のため中止となりましたが、これまで本校のためにご尽力いただいた皆様には心より感謝申し上げますとともに、今後も葛西第二中学校にご支援・ご協力のほどよろしく願いいたします。

葛西第三中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

葛西第三中学校長 山浦 勝雄
コーディネーター 安次富 宏行

2 ボランティア登録数（令和3年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	15 人
	学生ボランティア	0 人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
環境整備活動	不定期	5 人
行事支援	不定期	5 人
部活動支援	不定期	5 人



4 今年度の成果と課題

< 成 果 >

生徒が校舎内外で安全に生活できるよう学校でも整備をしていますが、学校応援団の方々にも例年ご協力をいただいております。

一方、生徒の方も清掃活動に積極的に取り組み、全校できれいな学校づくりに取り組んでいます。

今年度は地域のボランティア活動に参加することができませんでしたが、校内における消毒作業やこまめな換気などの奉仕活動に生徒はよく取り組んでいます。本校の生徒は地域でのボランティア活動に例年積極的に参加しているので、今後、町会の行事や近隣の施設の清掃活動などがあれば積極的に参加するよう呼びかけていきたいと考えています。

地域の一員としていざというときに頼りになる存在として活躍できるよう学校でも指導していますが、地域の皆様にも生徒の健全育成にご協力をお願いしたいと存じます。

< 課 題 >

コロナ禍の中で取り組めるボランティア活動があれば推奨し、自主的に参加していくよう働きかけ、生徒を支援していきたいと思っています。

ここ数年、学校応援団に協力してくださる方が定着しています。今後、協力していただける方がさらに増えていけば一層の充実した活動をすることが可能となります。コーディネーターと学校とが協力し、学校応援団の活動をより多くの人に周知し、活動の幅を広げたいと考えていますのでよろしくお願いいたします。

5 コーディネーターより

今年度もコーディネーターをさせていただいております。今年度は応援団としての活動はかなり縮小してしまいましたが、学校と保護者・地域が一体となって子供たちを育てていくというスタンスは変わりません。できることにできる範囲でしっかり取り組み、応援団としての務めを果たしていきたいと考えています。これからも学校応援団の活動が地域に広がり、参加される方がさらに増え、活発な活動になっていくようがんばっていきます。

6 学校長より

今年度はコロナ禍に見舞われ、今まで当たり前とされてきたことが中止や延期を余儀なくされました。学校の教育活動においても臨時休業や分散登校があったり、行事が縮小されたり無観客で実施せざるを得なかったりするなど、これまで培ってきた伝統が途絶えてしまうのではないかと危惧されたこともありました。しかし、コロナに負けず生徒が元気にがんばってきたことで本校の教育活動も徐々に活気を取り戻し、今日に至ることができました。その裏には学校応援団の方々の多大な支えがあったことを忘れるわけにはいきません。今後とも学校応援団の活動に引き続きご理解・ご協力をお願いいたします。

南葛西中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

南葛西中学校長 加藤 益弘
コーディネーター 佐野 義郎

2 ボランティア登録数（令和3年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	37人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
花壇・農園整備	不定期	20人



4 今年度の成果と課題

< 成 果 >

今年度は、新型コロナウイルス感染症により外部の方にご協力いただくのは現在も難しい状況である。特に本校は、「地域とつながる南葛西中学校」ということで、多くの保護者や地域住民の方に支えられながらここまでできている。毎年行われていた、「地域ふれあい面接」や「図書館整備ボランティア」が実施できなかったことは大変残念であった。その中でも、毎年学校の花壇や、農園を整備していただいている方々に来ていただき、お忙しい中にも関わらず活動していただいた。夏には、ヒマワリの花がきれいに咲き生徒や教職員の心も和らぐことができた。また、冬には花壇に新たな花を植えていただき、学校に彩を与えていただいた。

< 課 題 >

コロナ渦において、地域の方に来校していただき、ご協力いただくのは大変な難しさを感じる。新しい生活様式を踏まえながら、新しい形のボランティア活動を模索していかなければならないと感じている。

また学校の教育活動に参加できる方は、当然であるが時間の制約があり、ご協力いただける方は限定されがちである。日程の調整や、時間、内容を工夫するとともに、ホームページや学校だよりを活用して、学校から積極的に呼びかけていくことが必要である。今後も継続していくためには、新しく協力していただける方の発掘も同時にしていかなければならない。

町会、自治体との折衝や、協力者の日程調整など副校長がかかわる部分が大きいが、校務分掌の中で担当を置くなどして、学校全体で継続的、発展的に地域連携を進めていくことが課題である。

5 コーディネーターより

新型コロナウイルスが蔓延する中で、今年度は休校から始まり、現在に至るまでも、区内において多くの感染者が見られる中、例年活発に行われている学校応援団の活動は限られた中で行われるしかなかったのは寂しい限りである。南葛西中学校の学校応援団の活動も、多くの方々にご協力をいただき定着している。今まで、「地域ふれあい面接」や「図書館整備ボランティア」、「花壇や農園の作業」により地域と学校が一体となって生徒を見守ることができている。そのことで、地域でボランティアをする生徒や通りにがりに挨拶をしてくれる生徒を見かけ、「地域とともに歩む南中」を実感することができている。このような温かい関係をこれからも益々大事にして、地域の子供の成長をみんなで見守り続けていきたい。

6 学校長より

南葛西中学校は、これまで多くの地域の方々に支えられながら子供たちの健全育成に取り組んできました。昨今の新型コロナウイルス感染症の広がりに伴い、本校も校内感染や生徒の家庭内感染に不安を抱えながらここまで来ましたが、今年度は学校応援団の方々に来校していただくことができず大変残念に思っているところです。その中でも、花壇や農園の整備には限られた中で足を運んでいただき感謝しております。卒業式にはきれいな花が咲くことを楽しみにしています。本校にご協力してくださる方は、地元でも地域のために様々な活動をなさっているお忙しい方々ですが、「南中生をサポートする」というお気持ちで長年関わってきてくださいました。生徒には地域の一員としての自覚と、伝統を継承していく担い手としての自負が生まれてきています。今後ともご支援、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

南葛西第二中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

南葛西第二中学校長 蓮沼 祥之
コーディネーター 高島 由紀子

2 ボランティア数（令和3年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	20人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
陶芸ゲストティーチャー	不定期	8人
家庭科・被服授業補助	不定期	6人
図書館ボランティア	月1回	6人



陶芸 2年生美術 陶芸作品作り指導



家庭科 1年生家庭科 洋裁作品作り指導



図書館ボランティア 学校図書館の環境整備

4 今年度の成果と課題



< 成 果 >

- ・年度初めコロナ禍を踏まえ、学校応援団の各活動グループリーダーと学校側で本年度の活動について検討した。感染のリスクを減少させながら、できるだけ従来の活動を継続実施することとした。
- ・活動の内容
 - 陶芸教室ゲストティーチャー（2年生美術科）
茶碗を作成する。粘土で形を作り、素焼き、絵付け、本焼までのプログラムを2学期から開始した。作品の完成は3学期。
 - 家庭科被服授業補助（1年生家庭科）
家庭科の被服の授業において生徒のつまずきを支援する活動。本年度は、感染症対策のため、教室での授業を補助した。
 - 図書館ボランティア
図書館の環境整備や本の修復、読書コーナー・情報コーナーや開架の工夫を行った。月に1回の作業を計画的に行い、手作り感のあふれる読書環境をつくることができた。蔵書の電子化、図書館司書派遣との相乗効果で、学校図書館が充実し利用生徒が多くなった。
 - その他
2年生社会人講話の講師派遣をコーディネートする。本年度はチャレンジザ・ドリームが中止となったが、生徒にとって働くことを考える良い機会となる。3学期実施予定

< 課 題 >

- ・学校応援団のメンバーは、本校を卒業した生徒の保護者で構成されている。
新型コロナウイルスの影響で、本年度は新メンバーを募る状況でなかった。しかし、活動継続のために応援団の拡大は今後の課題である。
応援団を増やして、新たな取り組みも行っていきたい。

5 コーディネーターより

- ・コロナ禍の中、どのように活動を継続するかを、学校と相談しながら活動しています。
今年度も、学校応援団の活動を通して、学校の教育活動に直接かかわることができ、先生と同じ目線で生徒の学習に携わることができました。学校の様子を知る機会になりました。
学校応援団の活動も、これまでの活動の蓄積により、とても充実したものとなっています。ぜひこの活動をご理解いただき、一緒に活動するメンバーとなっただけいたら幸いです。

6 学校長より

- ・学校応援団の大変充実した活動に感謝申し上げます。コーディネーターをはじめ、各活動グループのリーダーの皆さんの組織的・計画的な活動は素晴らしく、本校の教育力は確実に高まっています。特に本年度はコロナ禍の中、これまでの活動を継続するために、様々な配慮をしていただき、本当にありがとうございます。どの活動も、本校の教育活動に欠かせないものとなっております。今後とも学校応援団の輪を広げ、質の向上をさらに目指していくとともに、多くの皆様の支援をいただきたいと思います。

西葛西中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

西葛西中学校長 中村 清忠
コーディネーター 埴 正彦

2 ボランティア登録数（令和3年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	23人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
学校図書館ボランティア	毎週木曜日	18人



4 今年度の成果と課題

< 成 果 >

今年度はコロナ禍であったが、図書館ボランティアの方々による活動は何とか実施することができた。書棚の掃除、整理整頓、本の修繕、新しく購入した本の受入れ、古くなった本の除籍などの図書館内の整備と、毎週木曜日の生徒向けの放課後開館業務を行っていた。また今年度は区より派遣された図書館司書の方とも連携し、中身の濃い活動が展開できた。

< 課 題 >

例年実施している花壇・栽培ボランティア、行事支援、三年生の面接指導の活動は残念ながら実施できなかった。来年度の実施に向けて準備をするとともに、新たな活動も模索していきたい。

5 コーディネーターより

今年度はコロナ禍の影響で例年のような活動ができず、大変残念でした。学校の教育活動に少しでも役に立てればという気持ちはありましたが、感染予防のため仕方がありませんでした。3年生の入試のための面接練習やガーデニング部とタイアップして行う栽培ボランティアも実施できず、生徒と関われる機会がなくて学校の様子も分かりにくかったです。来年度は工夫をして何とか活動ができるように準備を進めていきたいと思います。

6 学校長より

今年度はコロナ禍にもかかわらず、多くの図書館ボランティアの方々に活動をしていただき、感謝申し上げます。ボランティアの方々の「子供のために」「学校のために」という気持ちがひしひしと伝わってきました。例年行っているその他の活動ができなかったことは誠に残念でしたが、来年度は感染予防対策等を万全にして、活動が再開できることを切に願っています。

東葛西中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

東葛西中学校長 日暮 昌司
コーディネーター 木下 真理子

2 ボランティア登録数（令和3年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	40人
	学生ボランティア	3人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
学校図書館整備、 英検、漢検の補助	不定期	30人
部活動支援	週5日	3人
環境整備 (清掃・花壇・畑)	不定期	10人

菜園で育てている大根（左）と小松菜（右）



もち米を活用した給食



4 今年度の成果と課題

< 成 果 >

今年度はコロナ禍のため様々な活動中止や延期となってしまいました。そのような中でも、地域の方や保護者の皆様に大変お世話になりました。PTA役員から保護者へ声掛けをしていただき、英語検定、漢字検定の補助をお願いしました。春に出された緊急事態宣言のため第一回の検定試験が実施できなかったこともあり、第二回、第三回の受験者が増加しました。密を避けて受験を実施するために、たくさんの保護者の方にお手伝いいただきました。

毎年、3年生にエールを送る餅つき大会を行っていますが、今年度は実施できませんでした。そこで、PTA本部の方とも相談し、ご用意いただいた餅米を給食で活用させていただきました。給食だよりも餅つきをお願いしている地域の方を紹介しました。直接触れ合うことはできませんでしたが、少しでも交流できたのではないかと思います。

また、季節ごとに花壇や畑等の環境整備をお願いしていますが、今年度も小松菜の収穫などでお世話になりました。

< 課 題 >

- ・コロナ禍で直接の交流が難しい状況となっています。新しい応援団の在り方を工夫する必要があると思われます。
- ・毎年ですが、善意を基本とした活動だけに、時間調整など気を遣う場面がありました。
- ・交通費等の財政的な課題があり、幅広い年齢層や社会的地位の方々を継続的に動員することが難しいです。

5 コーディネーターより

今年度、感染症流行の影響で思うように集まらない状況でしたが、例年同様、英検・漢検の補助を行いました。畑では、回数は少なかったものの、生徒たちとともに小松菜の収穫を行いました。他に花壇の整備等もできる範囲での活動をしました。

残念ながら多くの行事が中止となり、地域の方々とお会いできる機会も減ってしまいましたが、一度立ち止まって今後を考える時間をもつことができたので、次年度以降にいかしていきたいと思っています。

6 学校長より

「地域の子どもは地域が育てる」をスローガンとして、学校応援団には「学習活動」「見守り」「学校環境の整備・推進」「地域の伝統文化の継承」等、さまざまな場面でご協力を仰いでいます。学校応援団の取組は「学校」と「地域・保護者」が子どもたちの健全育成にとって両輪となっていることを現したものです。様々な活動や学習への支援を通して多くの生徒たちに関わっていただくことで、まさに地域に根ざした教育活動が実践されていると感じます。

今年度は、新型コロナウイルス感染防止対策のため多くの行事が中止となってしまいました。それに伴い、学校応援団の皆様の協力を得る場面も少なくなりました。そのような中でも、新型コロナウイルス感染防止のための備品提供や、英検・漢検の試験監督などでお力をお貸しいただき大変助かりました。地域として学校を支えていただく学校応援団の存在は、大変大きいものと言えます。

清新第一中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

清新第一中学校長 薦田 敏
 コーディネーター 山本 祐子

2 ボランティア登録数（令和3年1月末現在）

学校応援団ボランティア登録数	一般ボランティア	47人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
図書サークル	定期考査前1週間、月に1・2回(火曜日)	10人
花サークル	全体作業(年4回)、グループ毎の作業(月2回)	23人
広報サークル	年3回、広報誌「清新」を発行	4人
サプリメントペアレンツ	不定期 PTA 防災教室での活動	10人

学校応援団連絡会議



花サークル活動



図書サークル活動



広報サークル(広報誌「清新」)



4 今年度の成果と課題

< 成 果 >

図書サークルは、本校の読書活動を充実させるために欠かせない図書館の環境整備を進めてくれています。また、図書館の放課後開放の取組は月1・2回程度火曜日に行い、読書好きの生徒が育つように支援をしてくれています。読書に対する生徒の興味・関心は高まっています。定期テスト前にも、テスト勉強ができるように図書館の放課後開放を行っています。

花サークルは、学校の教育環境整備に欠かせない存在です。本校の広い校地を利用して、用務主事と協力して花壇づくりを行っています。四季を通じて多くの花が飾られ、生徒は気持ち良く学校生活を送っています。

広報サークルは、広報誌「清新」の発行に向け活動を行っています。今年度は、121号から123号を発行しました。学校行事がある度に取材活動を行い、写真にあるような素敵な広報誌を発行していただきました。今年度は、コロナ禍で活動に苦労されていました。

サプリメントペアレンツは、父親の会で結成されていて、毎年恒例の防災教室(PTA主催)でお手伝いをしていただいています。具体的には、かまどベンチで火をおこし炊き出しをして生徒や地域の皆様に味わってもらっています。

本校の学校応援団は、その趣旨に基づく役割が十分に発揮され、学校の教育活動に大きな力を与えてくれていると言っていいでしょう。

< 課 題 >

現在の学校応援団は、従来あったPTAのサークル活動を基盤としたものです。しかし、今後、時代のニーズにより、学校が支援していただきたい活動が新たに生まれることも予見でき、その際にあくまで学校側からのニーズで活動が広がること、生徒に還元される活動であること、この二つの学校応援団の趣旨にあった団体・個人の応援団であることをしっかりと確認していくことが課題です。また、現在あるサークルが今の状態で存続できるように、組織をしっかりと固めていくことも課題として上げられるでしょう。

5 コーディネーターより

日頃から保護者のボランティア活動、サークル活動が盛んな清新一中ですが、子どもが卒業後も、学校を応援する人達がたくさんいる理想的な学校です。PTAのサークル活動として立ち上がった「図書サークル」「花サークル」「広報サークル」は年々充実しています。今年度も昨年に引き続き、広報サークルで作成している広報誌「清新」が東京都教育委員会から表彰されました。今後もさらに充実した活動と豊かな交流が広がっていくよう、地域の皆様どうぞよろしく願いいたします。

6 校長より

子供が健全に成長を遂げていくためには、地域ぐるみで子供を育てるネットワークが必要だと思います。学校の教育活動を支援していただいている本校学校応援団は、真にこのネットワークの重要な構成要素の一つです。また、その活動は、学校の教育活動の充実や活性化を実現していることはもちろんですが、本校を舞台とした地域コミュニティ形成に寄与しています。

清新第二中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

清新第二中学校長 成瀬 一博
コーディネーター 諸隈 智映子

2 ボランティア登録数（令和3年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	16人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

例年は下記のような活動を行っていましたが、新型コロナウイルス感染症防止対策として活動を中止いたしました。

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
警備関係	6月の運動会、学校周辺警備	3
夜間パトロール支援	7・8月 夏休み 学区域夜間パトロール	10
マラソン大会支援	12月 生徒の見守り	3

4 今年度の成果と課題

今年度は新型コロナウイルス感染防止対策として、すべての活動を中止しました。地域と学校との強いつながりを維持していくためにも、来年度は通常の活動ができるように、方法を工夫しながら活動してまいりたいと思います。

5 コーディネーターより

今年度は、新型コロナウイルス感染防止のため、残念ながら学校応援団としての活動がすべて中止となりました。来年度は、再び様々な形で学校をサポートする活動ができることを祈念しております。

6 学校長より

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響があり、ほぼすべての学校行事が中止となりました。常日頃から学校の教育活動を応援していただいているみなさまの来校をお断りしなければなりませんでした。

学校では、保護者、地域の方々との相互の協力体制の中、生徒を多くの目で見守っていただき、安全・安心のもと、学校生活を今後も送れるようにしていきたいと思っております。来年度はまた、さまざまな対策を講じながら、通常の活動ができるようにしたいと思っております。今後とも皆様の応援をどうぞよろしくお願いいたします。

瑞江中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

瑞江中学校長 岩下 敏夫
 コーディネーター 平根 康宏

2 ボランティア数（令和3年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	10人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

例年は下記のような活動を行っていますが、コロナウィルス感染防止対策として活動を中止しました。

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
図書ボランティア	学期に1回	4人
		
パソコン学習講座	年9回	5人
		
剣道部指導ボランティア	毎週1回	1人
		

4 今年度の成果と課題

< 成 果 >

学校応援団の活動も今年で10年目になりました。長く学校応援団として部活動指導をしていただいているベテランの指導員や、現役の保護者が毎年引き継ぎながら活動していただいている図書ボランティア、江戸川人生大学からパソコン指導といろいろな方面からご支援いただき円滑に応援団の活動が行われています。学校応援団のそれぞれの方々との連携も深まり、瑞江中学校の教育目標である「自ら育つ」生徒の育成に向けた教育活動を確実に支えていただき、開かれた学校づくり、生徒の健全育成の一助として大変お世話になっております。今年度はコロナ感染症のため活動ができませんでしたが今後も生徒、教職員、PTA、地域の方々と一体となって、来年度以降の教育活動を推進していきたいと思っています。

< 課 題 >

パソコン教室に関しては、今年度は、水曜日の授業終了後、職員会議の間の部活動が始まる前の時間帯から実施していただくことで参加しやすくなり参加者が増加した。また内容もPC検定対策を取り入れていただくことで、生徒が受験に向け目的をもって参加している。来年度もPC検定4級、3級合格を目指してより多くの生徒に参加してほしい。

3つの活動をお願いしているがPTA活動よりも緩やかな組織であり、指導者の人材確保が難しい。

年度当初に計画的に必要な予算案を立て、有効活用していくことの必要性を感じる。

5 コーディネーターより

平根 康宏

瑞江中学校「学校応援団」代表(コーディネーター)となって10年目になりました。我が子が在籍中はPTA役員として教育活動に関わり、今年度も学校評議員として瑞江中の教育活動を陰ながら応援しています。子供が卒業すると中学校との関わりもなかなか取りづらくなってしまいがちですが、現役の保護者やPTA顧問会の皆様、おやじの会のメンバーなどとともに、学校応援団としていろいろな場面で学校の活動に関わってきました。今年は残念ながらコロナ感染症のため活動できない状態となりました。来年度、再来年度と、学校応援団として大きな応援の広がりを作り上げていきたいと思えます。益々のご支援とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

6 学校長より

岩下 敏夫

今年度はコロナ感染症のため活動できませんでしたが、本校の卒業生である、江戸川人生大学の方々のご協力により、年9回の「パソコン教室」を実施しております。また、剣道部員への技術的な指導にもご協力いただき、剣道大会や昇段審査会で実績をあげることができました。図書室も保護者のボランティアの方々にきれいに整備していただき大変助かっております。生徒一人一人の可能性を伸ばすためいろいろな面から支援していただき、とてもありがたく思っております。来年度も、今年度の活動を継承しつつ、内容の充実を図ってまいります。

瑞江第二中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

瑞江第二中学校長 滝澤 清豪
コーディネーター 川原 晴久

2 ボランティア登録数（令和3年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	16人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
学校図書館整備	月1回の予定が今年度は2回のみ	14名
学校花壇整備	年間4回の予定が今年度は中止	16名

新しくなった書棚



4 今年度の成果と課題

< 成 果 >

- 1 生徒や保護者から、花壇の美しさが本校の特徴の一つになっているがコロナ禍のため今年度は中止になりました。生徒やボランティアの方から実施したい声が多く聞かれました。
- 2 本の修理、本の廃棄が計画的にできていることで、蔵書の管理がしやすくなってきているが、今年度は、司書が配置され、当初の2回で図書整備の方向を示唆してもらった。コロナ禍のため今年度は実施できなかったが、書棚も一部直され、使いやすい図書館を目指して、来年度に向けて準備が進められた。

< 課 題 >

- 1 教員の応援団との協働、意識向上を図ること。
- 2 活動内容の整理と確認及び新たな取組の模索をすること。
- 3 学校応援団と生徒が協同作業の回数が限定的であること。

5 コーディネーターより

学校応援団代表として、学校に協力できることをPTAOB会の皆さんや同窓生とよく相談している。これからも学校との連携を一層密にしていきながら、教育支援に意欲のある方々を発掘して学校を応援していきたいと考えている。

開校時に園芸部員として地域の方々と共に作り上げた学校花壇の意味（「静」ゾーンの校舎と「動」のゾーンのグラウンドとの線引きを意味する）と学校が開校以来、常に地域と共にあり、生徒、教職員、保護者、地域の皆さんの多くの努力、情熱に支えられて今があることを伝えることができた。

今年度は新型コロナウイルス感染予防の為ほとんどの活動が中止になってしまったが、学校応援団代表として花壇ボランティアや図書ボランティアなどの活動に生徒と一緒に取り組めることを喜び、学校応援団の活動がより広く、活発になるよう代表として活動していきたい。

川原 晴久

6 学校長より

生徒に面接練習をする中、本校の特徴はと尋ねると、『校内の花壇に咲いているたくさんの花と、学校の敷地を囲んでいる草花が瑞江二中の特徴です。』とほぼ全員の生徒が答えます。また、来校者や近隣の方からいつもお褒めの言葉をいただいています。これは、PTAやOBの皆さんが中心となって、学校花壇の整備をしていただいているおかげです。また、応援団の皆様、教職員、生徒が一体となって花壇の手入れを行っている姿が見られ大変喜ばしいことでもあります。そして、図書ボランティアの活動では、毎月1回、図書館の整備をしていただき、昼休みの図書館開放では、生徒が訪れていましたが今年度はほとんど活動できませんでした。来年度は少しずつでも活動を再開させて、地域とともに生徒たちを育てる体制が一層強固になっていきますよう、瑞江二中への応援をお願いします。

滝澤 清豪

瑞江第三中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

瑞江第三中学校長 清水 寿之
コーディネーター 澤井 茂

2 ボランティア登録数（令和3年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	5人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
図書ボランティア	不定期（蔵書修理・整頓、昼休み閲覧補助、廃棄図書整理）	1人
みどりの応援団	年4回（鉢植えと花壇づくり）	4人

みどりの応援団



4 今年度の成果と課題

< 成 果 >

本年は地域やP T A活動が縮小されるなか、少ないながらも学校応援団に応募していただいた。土曜日や生徒のいない時間で活動することが出来た。

図書ボランティアは1名だが、学校の現状をよく知る長年取り組んでいただいている方なので、新校舎移転を目指して廃棄図書の整理を手伝っていただいた。

みどりの応援団では、新校舎建築中の工事で環境があまりよくない状況を、正門前や校舎周り、花壇にお花を植えていただき少しでも安らぐ空間を作ることが出来た。

< 課 題 >

今年で5人の方が集まってくれたが、例年応募していただいている方のうち数人は途切れてしまった。もういちど昨年の状況にするのは簡単ではないと思われる。

江戸川区では学校応援団という名称にとらわれず、地域の諸団体が、学校を支援していくという意識が以前から根付いている地域である。そうしたつながりを大切に、もういちどゼロから作り直すつもりで活動の輪を広げていきたい。

5 代表より

本年度はコロナ禍ということもあり、どこまで学校のお手伝いができるかわからず、学校外の間が生徒と接触することに引け目を感じてしまい、活動が進みませんでした。しかし学校応援団の意義は、世代間や個人、団体の考えを尊重し、それぞれの存在意義を包括しながら学校を支援していこうというところにあると考えます。瑞江・篠崎地域は地域町会を中心にしながら、各団体の活動や支援が良き伝統として根付いており、学校応援団として活動しやすい土壌ができています。今後は家庭、地域、学校がそれぞれの役割を明確にしながら、お互いを助け合っていくための音頭取りを代表の役割として、さらに活動の輪を広げていきたいと考えています。(澤井)

6 学校長より

本校の学校応援団は、平成24年度に、従来から本校を支援くださっているP T A O B会の皆さまが中心となって発足されました。

毎朝のあいさつ運動をはじめ、瑞三感謝祭、などは伝統的な活動として引き継がれております。本年は多くの制限があつて出来なかったことが多かったですが、緑のボランティアが花を植えてくださり安らぎの場を作ってくださいたりしました。また、新校舎移転を目指し図書整理を推進していただいたことは、大変有難いことです。

学校を取り巻く地域町会やP T A O B会、さらに保護者の皆さんの支援には心より感謝申し上げますとともに、今後とも学校教育に関心を持っていただけますように、私たち教職員も一丸となって教育活動を展開して参りたいと考えております。

今後ともご指導とご支援を賜りますよう、よろしく願いいたします。(清水)

春江中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

春江中学校長 白石 亨
コーディネーター 芦田 昭八

2 ボランティア登録数（令和3年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	21人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
農園活動	不定期	5
図書ボランティア	月、金曜日	6
学校行事警備等	不定期	10



4 今年度の成果と課題

< 成 果 >

今年度の活動は農園活動・図書ボランティア・学校警備等の3種である。

農園活動については、ジャガイモ、さといも、さつまいもの栽培を行った。ボランティアの方々がご高齢になり、今年度から農地の大幅な縮小を図った。当然、農作物の量を減るので、収穫できた農作物は家庭科部の活動等で利用を行った。仕入れから栽培まで手広く活動したいいただき、農園の維持・管理に携わってくださった。

図書ボランティアについては平成30年度からの活動である。昨年度から、金曜日だけでなく、月曜日にも学校図書館を開館し、その業務に携わっていただけることになった。生徒への本の貸出業務だけではなく、書籍の廃棄や購入などの管理、学校図書館の内装の装飾、「春中図書館通信」の毎月の発行など精力的に活動していただいている。特に、今年度は全面的な大掃除を行い、図書の閲覧が今まで以上にしやすくなった。

学校行事等警備については何年も継続して活動していただいている。「春中メンズクラブ(おやじの会)」の方々が運動会や文化祭といった大きな行事の警備をはじめ、施設の営繕活動にも取り組んでいただく予定であった。しかし、コロナ禍の中、今年度は活動ができなかった。

< 課 題 >

新型コロナウイルス感染症対策のため、学校行事がほとんどなくなってしまった。そのため、学行事等警備については、「春中メンズクラブ(おやじの会)」の方々にお願いする予定であったが、実施することができなかった。来年度以降も、行事等で現在のような状況が続く場合は、代替りのボランティアの内容を検討する必要がある。

5 コーディネーターより

今年度から、農園活動を縮小させていただきました。ここ数年の間、農園活動の維持が大きな課題となっていました。現在のボランティアに携わる方々の状況を踏まえ、大幅な縮小は止む得ないと判断しました。長い間、春江中の伝統ともいえる活動に携わった、ボランティアの方や先生方、本当にありがとうございました。小さい畑ですが、少しでも学校のためにと活動していきたいと思えます。また、図書ボランティアや学校行事警備等については直接関わっていませんが、活動している方々には本当に感謝しております。今後も学校応援団コーディネーターとして学校と地域のよりよい関係のために尽力したいと思います。

6 学校長より

学校応援団コーディネーターの芦田様をはじめ、農園活動、図書ボランティアの活動、春中メンズクラブでの学校行事警備等の活動に携わった学校応援団の方々に、常日頃の活動について深く感謝申し上げます。今年度は、図書ボランティアの方に、図書館の大掃除をしていただきました。生徒が今まで以上に、きもちよく図書館が使えるようになったと感じています。このような学校応援団の活動は、教員だけでは、運営できないものです。みなさまのお力添えがあるおかげで学校の円滑な運営ができております。今後とも、生徒の健全育成のためにご理解とご支援よろしくお願いたします。

鹿本中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

鹿本中学校長 富永 光一
コーディネーター 甲田 薫

2 ボランティア登録数（令和3年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	13人
	学生ボランティア	1人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
学習補充教室	長期休業中(夏季・冬季)	0人
特別支援学級補助	不定期	0人
図書館整備	不定期	0人
手話通訳	難聴学級「卒業生講演会」(7月)	1人
餅つき会運営	12月	0人
朝のあいさつ運動	学期1回、一週間	PTA活動
心和む 花を！	不定期	2人



4 今年度の成果と課題

< 成 果 >

学校周辺地域は、学校を温かく見守り、応援していこうという伝統的な協力体制があります。その伝統は受け継がれ、現在でも保護者、PTAのOB・OG等の皆様や卒業生の皆様から温かなご支援・ご協力をいただいております。

今年度は新型コロナウイルス感染症のため例年通りの活動はできませんでした。昨年度から計画していた「心和む 花を！」プロジェクトを推進し、道路に面した敷地内に花を植え、咲かせることができました。生徒の反応も上々でしたが、総合体育館を利用する方々から「きれい」「歩く楽しみがある」などお褒めの言葉をいただきました。

これを契機にさらに地域に根差した学校を目指していきます。

< 課 題 >

ボランティアの登録人数やPTA以外の地域協力者を確保するのが難しい状況です。平日の放課後に図書館解放や学習教室を手伝ってくれる人材を確保し、読書活動や学習をより一層、活発にしていければと考えています。また、応援団と生徒が協力して校内の整備・美化活動を活発にしていきたいと思います。PTAOB・OG会が再編成されたので、次年度は連携して活動したいと考えています。

5 コーディネーターより

この一年間、鹿本中学校の取り組みにご協力とご支援をいただきまして、心から感謝申し上げます。応援団は「あくまでボランティア」とは言え、自分の時間・生活を割いて学校に出向いて下さる方々の善意に甘え続けることは心苦しく感じます。

今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大で例年の活動ができませんでした。学校からの要請で、花の植樹のみでしたが、地域の方々から「よかった」という声が届いています。母校である鹿本中学校が地域のために役立ち、評価されていることは、何よりも嬉しいことです。地域や卒業生などの協力を得られるように努力していきたいと思います。今後とも、どうぞよろしく願いいたします。

6 学校長より

学校応援団の皆様、卒業生の方々、そして、PTAの方々など多くの皆様からの応援をいただきまして、心よりお礼申し上げます。

鹿本中学校には、通常の学級と特別支援学級、そして難聴通級学級があります。それぞれ、特色ある教育活動に取り組みながら、お互いを認め合い、励ましあい、高めあって中学校生活を送っています。学校応援団の皆様には、この特色ある教育活動にご支援を戴いております。教員では補いきれない分野での活動においても取り組めると感謝しております。

今後とも生徒の自己実現のため、ご指導、ご協力頂きますよう、よろしくお願い致します。

鹿骨中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

江戸川区立鹿骨中学校長 青山 昭広
コーディネーター 加藤 苗人

2 ボランティア数（令和3年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	11人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
花壇整備	不定期	3人



4 今年度の成果と課題

< 成 果 >

新型コロナ感染症予防のために、外部の方を校内に入れることが難しかったため、校舎周りの花壇の整備を行った。校内の整備、消毒等で教職員が環境整備のできない校外をやっていただけたことはとてもありがたかった。

< 課 題 >

今年度は、社会情勢により、学校行事も地域行事もなく、校舎周りの活動になってしまった。来年度は、昨年度の課題として挙げられてる、卒業生や学生ボランティア及び地域の人材を積極的に導入し、活動の幅を広げることができるようにする。

5 コーディネーターより

今年度は新型コロナウイルス感染予防のために、活動に制限が多くかかった。学校図書館ボランティアを予定していたが、校舎内での活動はできなかった。来年度は、昨年度の課題となっていた、幅広い活動やPTAのOBや地域の方々を中心に、卒業生や大学生の方々の参加も推進し、少しでも鹿骨中学校の教育活動の支援ができればと思います。

6 学校長より

学校応援団の皆様には、日頃から本校の教育活動にご支援、ご協力をいただき、感謝しております。

今年度は、花壇の整備をしていただきました。様々な制限や暗いニュースが多い中、校門周りや玄関が明るい雰囲気になり、とてもありがたいです。

私は、「みんなが幸せになれる鹿骨中学校」を学校経営方針の柱としています。その前提となるのが、子どもが安心して安全に過ごすことができる学校です。学習環境整備や行事の支援等を通して、経営方針の達成のために、そして、子供たちの健全育成のために、今後とも皆様のご支援と応援をよろしくお願いいたします。

篠崎中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

篠崎中学校長 清水 秀登
コーディネーター 中川 博喜

2 ボランティア登録数（令和3年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	10人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
朝の声かけ運動	毎日（今年度は2学期から3学期末）	200人
運動会パトロール	中止（年1回の予定であった）	20人
祭礼パトロール	中止（年1回の予定であった）	20人
篠中フェスタ	中止（年1回の予定であった）	30人
PTAバザー	中止（年1回の予定であった）	20人
校内美化活動	中止（年1回の予定であった）	10人
花壇整備・図書整備	中止（年1回の予定であった）	10人

写真は昨年度のもの



篠中フェスタ



花壇整備

4 今年度の成果と課題

< 成 果 >

- ・生徒の育成を学校・保護者・地域が一体となって育てていく土台になってきている。
- ・「朝の声かけ運動」に参加した保護者が、あいさつの様子を記入して職員室に一声かけて学校の様子などを話すなど連携が深まり、生徒たちもみんなに見守られている感を強く感じている。
- ・校内美化活動、環境整備についても生徒と一緒に活動する良い活動であったが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大のため中止になった。

< 課 題 >

- ・学校応援団の人材の確保や平日の日程調整が難しい。
- ・教職員との連携を一層充実していくことが必要である。

5 コーディネーターより

- ・今までの活動を継続しながらも、新しい試みや改善をして現在の活動の形になってきています。PTA会長経験者が代表になるケースが継続しており、PTAとの連携や地域との連携もスムーズにおこなわれていることが活動を深めているように感じています。
- ・今年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、「朝の声掛け運動」の他は中止になってしまいました。1年間活動がなくなってしまったことで、伝統になっていた学校応援団の活動が途切れてしまわないようにしていきたいと思っています。
- ・学校を通して地域の方たちとも交流を深められたことによって、地域性の温かさや篠崎中学校が地域から愛されていることを大切にしていきたいと思っています。
- ・今後も生徒、学校のために、地域の住民として学校応援団に協力していきたいと思っています。

6 学校長より

- ・今年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、「毎朝の声かけ運動」のみになってしまいました。保護者の皆様は、お忙しい朝の時間にもかかわらず、毎日代わるがわるご協力くださり生徒たちを温かく見守りながら挨拶をしてくださっています。心より感謝するとともに大変心強く思います。
- ・運動会・校内美化活動・花壇整備など学校行事への協力、また祭礼パトロールや篠中フェスタなどのPTA行事へのお手伝いなどは、今年度はしていただけませんでした。新型コロナウイルスが収まった時には引き続きお願いをしたいと思います。様々な場面でご協力をいただき感謝しております。
- ・学校・保護者・地域の願いが、「誇れる母校」を目指し、地域の一員として自覚をもてるように育てています。今後もネットワークをさらに広げ、強めることにより生徒のために充実を図っていききたいと思います。

篠崎第二中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

篠崎第二中学校長 本杉 貴保
コーディネーター 朝倉 公義

2 ボランティア数（令和3年1月末現在：今年度未募集）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	0人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

（例年は、下記のような活動を行っていますが、新型コロナウイルス感染防止対策として活動を中止しました。）

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
あいさつ運動	毎週水曜日	
行事支援	不定期	
学校公開	不定期	

4 今年度の成果と課題

新型コロナウイルス感染拡大等により全ての活動を中止しました。

< 成 果 >

【昨年までの活動】

- ・ 6月実施の運動会での、自転車整理や受付業務のお手伝い。
 - ・ 10月に実施するPTA主催のバザー「篠二プラザ」において、餅つきを担当。
 - ・ 柔剣道場周辺にある竹林と柵の環境整備や管理。
- 不定期ではありますが、年間を通して地道な活動をしていただいています。

< 課 題 >

- ・ ボランティアの方は、PTAのOB・OGの方がほとんどで高齢化が進んでおり、新型コロナウイルス感染対策防止の観点から活動を計画して行うことはできなかった。
- ・ コロナ渦にあって、高齢化が進んだボランティアとの交流は、感染のリスクや重症化しやすいなどの観点からも直接的な交流をもてなかった。

5 コーディネーターより

例年であれば、応援団の皆さんには、公私ともに大変ご多用の中、それぞれが都合のつく時間で活動をしていただいております。ただ、今年度に関しては、新型コロナウイルス感染防止対策だけではなく、ボランティアの方及びそのご家族の命を守ることを第一に考え、全ての活動を中止することとしました。今後については、社会的にコロナ渦が、一日も早く収束することを願っております。

しかし、今後の活動について考えると、内容によっては体力的にも現在のメンバーでは厳しいものもあるので、若い人や学生さんなど、年齢の幅を広げられるよう、メンバーを募る活動を進めていきたいと思っております。皆さんと一緒に篠崎二中を盛り上げていきたいと思っております。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

6 学校長より

学校応援団の皆様には、日頃から本校の教育活動にご支援とご協力をいただき、感謝申し上げます。応援団の皆様のご協力には、学校としてもありがたく思っております。

今年度は、年度当初より緊急事態宣言が発出され新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた対応が求められ、運動会や文化祭等の学校行事を中止とするなど教育活動が大きく制限されました。学校応援団、PTAの皆様にもご理解いただき、例年行っていた環境整備や篠二プラザなどの活動も中止にさせていただきました。

新型コロナウイルス感染が収まり、地域の皆様が学校応援団として本校を応援していただき活動できることを願っております。

小岩第一中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

小岩第一中学校長 川崎 純一
コーディネーター 金子 豊

2 ボランティア登録数（令和3年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	約 25 人
	学生ボランティア	0 人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
あいさつ運動	生徒の健全育成のためのあいさつ運動 (不審者パトロール含む)	延べ約 20 人
玄関装飾花壇づくり支援	プランター及び樹木植え付け、花壇 (不定期)	延べ約 5 人



4 今年度の成果と課題

< 成 果 >

P T A活動に行事運営委員会として学校応援団活動を位置づけ、広くボランティアを募る予定だった。学校の行事は、中止または延期となり、「学校応援団」の活動もほとんどできなかった。その中で、民生児童委員・保護者・地域の方と情報交換は行った。

学校花壇は多くのプランターを整備し、校門付近を装飾した。活動が制限される中、P T A役員や「学校応援団」からの発案で、登下校のパトロールを兼ねた保護者のあいさつ運動が行われた。「学校応援団」からの応援はありがたく、今まで活動を積み重ねてきた成果である。

< 課 題 >

本校では、例年近隣小学校のP T Aと連携して三校一園連絡協議会を(園は閉園)設置し、合同音楽会を開催している。今年度は中止となったが、今後も会場や参加団体、現状を検討しながら継続していく。予防対策をし、既存の活動を工夫し、新たな活動を模索している。P T A・地域の方々に広く呼びかけ協力をお願いしていくとともに、人材の確保に努めていく。

5 コーディネーターより

本校における学校応援団の活動は前年度に引き続き保護者、P T A本部役員の方々や役員O B、そして同窓会や町会等地域の皆様といった本校とかかわりのある方々にご参加いただき活動する予定でした。しかし、長期の臨時休校となり、生徒、教職員の皆様や保護者の協力とご苦労に心より感謝するとともに早く今回のコロナ禍が収束して、普通の学校生活、社会生活に戻ることを願っております。

活動制限という経験したことのない環境下で学校生活を送っている生徒。この先まだまだ予測のできない年になるかと思いますが、この経験を糧に生徒たちが成長できるようサポートできればと思っております。

6 学校長より

本校では、「生徒が通うことを、保護者が通わせることを、地域が存在することを、卒業生が卒業したことを自慢(誇り)と思える学校」を目指しています。実現するためには、学校、家庭、地域が三位一体となった教育の実現が必須です。「学校応援団」の活動は三位一体の教育が具現化したものです。

本年度はコロナ禍の中、保護者、P T A本部役員、P T A O B、同窓会や地域等多数の方々から無理のない範囲で応援していただきました。心より御礼申し上げます。また、今後も、生徒の健やかな成長へのお力添えをよろしく願いいたします。

小岩第二中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

小岩第二中学校長 橋本 孝
コーディネーター 高橋 寛

2 ボランティア登録数（令和3年1月末現在）

学校応援団ボランティア登録数	一般ボランティア	5人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

例年は下記のような活動を行っていますが、コロナウィルス感染防止対策として活動を中止しました。

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
環境整備	江戸川土手清掃 新型コロナウイルス感染防止のため 今年度は中止	0人
募金活動	JR 小岩駅前でのユニセフ募金 新型コロナウイルス感染防止のため 今年度は中止	0人
土日部活動支援	令和2年1月～令和2年3月 新型コロナウイルス感染防止のため 今年度は中止	0人
学校図書館支援	不定期 新型コロナウイルス感染防止のため 今年度は中止	0人
行事支援	5月25日(土)：運動会 新型コロナウイルス感染防止のため 今年度は中止	0人

4 今年度の成果と課題

< 成 果 >

今年度は新型コロナウイルス感染防止のためすべての活動を中止せざるおえなかった。来年度、感染症が収束したならば、活動を再開していきたい。

< 課 題 >

外部の方々との接触をできるだけ避けなければいけない状況下で、一度もボランティア活動を学校応援団ボランティアスタッフのみなさまにお願いすることができなかった。

5 コーディネーターより

学校の活性化とともに地域の活性化にもつながる「応援団の活動」が来年度再開して、また二中の生徒のみなさんと活動できる日を心まちにしております。

6 学校長より

学校応援団コーディネーター高橋寛様はじめ今年度も学校応援団ボランティアスタッフに登録して下さったみなさま、今年度は大変残念な状況になりました。地域・町会のみなさまとお会いすることもかなわず、この1年が終わろうとしています。

昨年度まで学校応援団のみなさまには、学校図書館整備支援や、部活動指導等、生徒たちの学習・部活動に大きく貢献していただきました。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染防止のためすべての活動を中止せざるおえませんでした。来年度こそ、この事態が収束し、「ボランティアの二中」と呼ばれる状況がもどって来ることを心から願わずにはおられません。

今後とも小岩二中を応援していただき、「学校と地域の絆」をより強められるよう地域の皆様のお力に期待しております。「応援したくなる学校づくり」のために私たち教職員も参加を心がけ、保護者・地域の皆様方とコミュニケーションを深めます。引き続き「学校応援団」のみなさまのご協力をお願いするとともに、新しい「応援団」づくりのためにコーディネーターと力を合わせて取り組んでまいります。

小岩第三中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

小岩第三中学校長 武田 信樹
コーディネーター 日高 久仁子

2 ボランティア登録数（令和3年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	108人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
環境整備(校内外)	不定期	3人
廃品回収	年4回	100人
面接指導	年1回	5名



屋上の緑化



屋上菜園



廃品回収



竹垣作り

4 今年度の成果と課題

< 成 果 >

学校応援団のみなさんの力が、生物環境部による活動において生徒の支えとなっています。また、受験期の3年生を対象とした面接練習を、地域の方々をお願いしています。これらは「心の教育」を重視している本校の大きな特徴の一つとなりました。団長（コーディネーター）を中心に学校の環境整備にも計画的に取り組むことができました。本年度は屋上菜園で収穫したトウモロコシを理科室にて観察し、植物への理解を深めるなど、生徒たちの生きる力につながりました。

< 課 題 >

サポーターとしての大人の募集や維持費の捻出が課題です。屋上緑化の維持管理を中心的に行ってくれる学校応援団員を見つけることを目標としていましたが残念なことに見つけることができませんでした。読書科教育推進のための図書館ボランティアの方を含め、令和3年度も新たな応援団員を募集し、さらなる活性化を図っていきます。

5 コーディネーターより

私が学校応援団として活動するきっかけは屋上緑化のお手伝いでした。日々進化していく屋上での活動を進めていくうちに生物環境部のお手伝いをするようになりました。

子供達と過ごす時間はとても楽しく、最初は土いじりに消極的だった生徒も何かを発見したり自然と触れ合ったりしているうちに、“わぁ！すごい！”とすごく感動し、積極的に活動に参加するようになった姿を見ると本当に嬉しくなります。収穫の喜び、など楽しいこともたくさんある反面、夏の暑い中での草取り、芝刈り、など大変なこともたくさんあります。微力ではありますがこうした活動のお手伝いをする事により、生徒たちをより身近に感じながら学校の環境を整えることへ繋がっていけばこんなに嬉しいことはありません。

学校応援団では、屋上緑化など自然との共存する活動の他にも部活動や学校行事の取り組みのお手伝いもしています。少しでも学校の力になりたいと思っている地域の人々と、学校教育をより充実させたいと考えている先生方の思いがつながり結成された学校応援団。こうしたあたたかい気持ちのつながりが充実した学校環境をつくり、子供達へと伝わっていくことを願いつつこれからも活動していきたいと思えます。

6 学校長より

本校の学校応援団の取り組みもスタートして11年目を迎えました。取り組み内容にありますように、様々な活動を展開していますが、学校の教育環境の充実や生徒の心の充実という目的に叶ったプロジェクトになっています。本校では、校舎屋上での野菜作りや植物栽培、学校内外の環境整備がその活動の柱となっていますが、応援団の方々には生徒の活動を支える大きな力になってもらっています。また、部活動や学校行事にも応援団の方のお力添えをいただいております。何よりも、生徒たちが屋上の野菜や植物、生物を大切に育てたり、見守ったりしながら自分たち自身の心を育ててくれていることが大きな成果だと考えています。これからも、保護者や地域の方々のご協力ご支援を得ながら有意義な学校応援団の活動を続けていきたいと考えています。

小岩第四中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

小岩第四中学校長 鈴木 訓文
コーディネーター 若松 喜美子

2 ボランティア登録数（令和3年1月末現在）

学校応援団ボランティア登録数	一般ボランティア	11人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
図書整備	月2回	2人
面接指導	年1回	7人
菊づくり	週2回	3人

< 菊づくり >

「菊づくりを通して、地域とのふれあいの場を築く」
学校応援団の協力により、半年間を通して菊を栽培している。コロナ禍もあり、生徒のボランティアは今回は募集しなかった。



< 面接練習 >

三年生の面接練習の面接官として7名の方に協力していただきました。



4 今年度の成果と課題

< 成 果 >

- ・「地域ふれあい」として、地域の方に3年生の面接練習をお願いしている。生徒は緊張しながらも実際に近い形の練習ができ、地域の方には生徒の実態がつかめるということで、双方にとって良い機会となっている。
- ・学校応援団が始まってからずっと、菊作りに取り組んでいる。週1回程度、担当の方々が訪れ、菊の手入れをしている。今回はコロナ禍ということで、生徒のボランティア参加はなしとした。
それ以外にも、図書の整備を行っている。多面的に活動をしているので、多くの方々に協力をいただいている。継続的な取組により、学校応援団に対する保護者や地域の方々の理解も深まっている。

< 課 題 >

課題として次の3点があげられる。

- ・父親の参加が少ないので、今後増やす方策を考える。
- ・コロナ禍で今までできていた事が難しくなっている。例年通りの活動ができないので、できることを考えながら、地域の人材を活用し、多くの方に協力を願い、生徒に体験的な学習をする機会を増やしていきたい。
- ・外国の方に協力を得るのが難しい。活動を分かりやすく視覚で伝える工夫をし、多くの方に参加してもらいたい。

5 コーディネーターより

学校応援団長として、13年間学校支援に携わっている。「菊作り」では、文化祭のときに花を咲かせるようにしてきた。しかし今回は、コロナ禍で中止となり残念でしたが、生徒から「きれい」とか「ありがとう」と言ってもらい、励みとなり活動を続けている。また、面接などの機会に学校の様子もうかがわれ、とても楽しみにしている。今後も、いままでできていたことが、当たり前でできず、困惑することがあったが、地域に根を張った「学校応援団」を目指して、学校の要望にあった幅広い支援の輪を広げていきたい。

6 学校長より

コーディネーターをはじめ学校応援団の関係者の皆様には、ご多用にもかかわらず、例年と変わらず菊作りや面接練習、図書整備など、いろいろな活動をしていただき、とても感謝しております。今年度は感染症対策の影響でできないことも多かったのですが、本校では、健全育成の場として、地域の皆様と生徒がふれあう機会を大切にしています。地域での生徒のボランティア活動が再開されれば、また参加させていただきたいと思います。そのような活動をさらに推進していくためには、学校応援団の皆様のご協力が不可欠です。引き続き、来年度以降も本校の応援をよろしく願いいたします。

小岩第五中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

小岩第五中学校長 石井 千歳
コーディネーター 前場 利彦

2 ボランティア登録数（令和3年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	20人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
学校農園	通年	10
高校合同相談フェスタ	7月(コロナ感染症拡大のため中止)	9
PTA 来てきてバザー	10月(コロナ感染症拡大のため中止)	8
地域清掃	2月(コロナ感染症拡大のため中止)	9



ネギの収穫



冬瓜の収穫

学校農園での活動の様子

4 今年度の成果と課題

< 成 果 >

「学校農園」の活動は順調に進み、生徒と収穫したネギや冬瓜を用いた給食が出されました。また、昨年度に引き続き、今年度も「高校合同相談フェスタ」「PTA 来てきてバザー」「地域清掃」等の予定をしましたがコロナ感染症拡大のため中止になりました。



< 課 題 >

生徒の教育支援、学校施設の修理、学校図書室運営の支援など、応援団の活動を広げ、活性化していきたいと思えます。そのための人材の確保が課題です。

5 コーディネーターより

今年度も、運営委員会において小岩第五中学校に携わる全ての団体の代表の皆様に参加いただき、学校応援団の役割や活動について話し合いをもちました。農園部の方々には、生徒たちに野菜作りの楽しさを体験させていただいています。ボランティア活動などを通し、生徒たちの健全育成を少しでも応援できるよう活動していきたいと思っております。

今後も地域の方々に多く関わっていただけるよう活動の輪を広げていきますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

6 学校長より

私はできる限り校舎内だけでなく、校庭、学校周辺を歩くようにしています。その中で、校地の東側を通りかかると年間を通して、折々の作物が成長の姿を見せてくれます。ネギ、トマト、冬瓜など、生徒も収穫を楽しみにしています。地域の方々が文字通り手をかけている姿を生徒たちも目の当たりにしており、収穫された食材が給食として出される時は、食育の一環としても貴重な機会です。

また、今年度はコロナ感染症拡大のため中止せざるを得なかった「PTA 来てきてバザー」「高校合同相談フェスタ」「地域清掃」は来年度も実施したいと思っています。これも、地域と学校を結びつけようとする活動であり、生徒の活動の場面を与えていただいているものです。生徒も大きな達成感とともに、地域への帰属意識を育んでくれることと楽しみにしています。

昨今、学校教育には一段と大きな期待が集まっています。そういったときに、学校応援団の皆様方にお力添えをいただけることは、大変ありがたいことだと思います。

本校は、大きく「学校農園」と「地域美化」「PTA 活動」などに力を貸していただいておりますが、学校応援団の存在そのものに有形、無形を問わず、力強さを感じます。今後も一層発展させていきたいと考えています。皆様のお力添えに感謝いたします。

上一色中学校 学校応援団 実践報告書

1 校長及びコーディネーター氏名

上一色中学校長 川杉 玲夫
コーディネーター 菅原 一之

2 ボランティア登録数（令和3年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	6人
	学生ボランティア	4人

3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
図書整備、図書館管理	9月から 週に2~3回	5人
学習支援	実施できず	0人
花いっぱい運動	不定期	2人

花いっぱい運動



学校図書館



4 今年度の成果と課題

< 成 果 >

本校では昨年同様、「図書ボランティア」による放課後の学校図書館開館を実施しています。今年度は新規の生徒が図書館を利用する機会を増やし読書への推進となるよう努めました。新たなボランティアの方も増え様々な企画をご提案いただいています。花いっぱい運動では、四季を感じさせる花々を花壇やプランターいっぱいに咲かせ、花あふれる学校を目指しました。今年度は、学習支援については現役の大学生をお願いすることができましたが、コロナ感染防止などで計画通りにはいかなくて残念でした。

< 課 題 >

本校では、最近、学校応援団に関わる人材の確保が課題としてあげられます。今年度は、教員志望の学生のボランティアが声を上げてくれました。コロナ感染防止もあり計画が立てられなかったことが課題です。図書ボランティアには、保護者が積極的に参加していただきました。生徒が来室しやすい学校図書館をということで工夫いただいています。

今後は、募集活動をしていきます。地域の皆様のお力をお借りしながら応援団の活動の幅を広げるとともに、活動を活性化していきたいと思えます。

5 コーディネーターより

冷気が身に迫ってくる師走。寒気が関東地方をも覆っています。最近、校舎から生徒の皆さんの元気な声が聞こえて安堵し、ほっとしています。振り返ればこの一年は、新型コロナウイルスが社会や個人の心理状態から経済までの脅威となってきました。横浜港に入港したクルーズ船の乗客に感染者が出たことが発端でした。「これからの1～2週間が瀬戸際」「感染の防御が難しいウイルス」と何度も警告が出されました。世間の多くの人々が不安に陥り、生命の脅威...と恐れました。不安を煽るデマや、デマに振り回される人も出て世間が混乱しました。マスクをせずに咳き込んでいる人を見て、最寄り駅に停車した電車もありました。日本は既に水際での感染拡大防止に失敗しています。しかし、不安が増幅する中、特異な現象を見聞きし心強く感じています。それはマスクについてです。当初、マスクの着用は義務付けられていません。ところが店舗からマスクが消え 人々の着用率が高くなりました。咳が出た際のマスク着用は日本人の「たしなみ」でした。たしなみ、心がけ、慎みは日本のくらしの重要な支えになっており、日々の暮らしの中で長年掛けて習得されてきました。日本人の特色である他を思いやる精神は、我が国の生活の基盤となっています。

これらのことから、本校の生徒の皆さんにカレッジエールを送ることにいたします。マスクひとつを取り上げても、わが身を守るだけでなく、他の人達に感染させないという、他者を思う思慮が内在しているのです。歴史的には幾多の細菌やウイルスとの苦闘がありました。必ずしも根絶したものばかりではありません。共生しながら今日を迎えているのが実態です。新型コロナウイルスとの相克を、先人の英知に学びながら向き合い乗り切れることを祈るばかりです。そうです、その栄光はまさに皆さんに降り注ぐのです。

6 学校長より

本校の学校応援団は図書館のサポートと花いっぱい運動、学習支援にご協力いただいております。少しずつ軌道に乗ってきているとは思いますが、まだまだ工夫が必要だと思っています。来年度は学校応援団の募集も進めていく予定です。来年度も応援団の皆様のお力をお借りしながら、さらに充実した活動ができるよう尽力してまいります。ご協力をよろしくお願いいたします。